

3・11を忘れない

映画鑑賞 & 意見交換イベント

場所:須賀川



2017年

3月3日(金) メディアアナリスト上杉隆トークセッション

4日(土) アベマンセイLIVE「かもめの視線」

映画上映:「大地を受け継ぐ」(2015年公開)と意見交換会

5日(日) 子どもたちの映像作品「映画をつくる子どもたち」

映画上映:「飯館村-放射能と帰村-」(2013年公開)と意見交換会

映画鑑賞 & 意見交換イベント

福島を語ろう2017～3・11を忘れない～

あの震災・原発事故から6年目となる今年3月、映画を通して福島の現状を知り、参加者の皆さんで福島の今とこれからを語りませんか？

福島県内外、帰町するしない(賛成反対)など、とかく意見が二分されがちな福島の課題に向き合い、映画を見て感じたことや福島へのイメージなどいろいろな話題で「本音トーク」しましょう。

一般社団法人ヴォイス・オブ・フクシマは、3月3・4・5日の3日間、映画鑑賞 & 意見交換イベント「福島を語ろう2017～3・11を忘れない～」を開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

3月3日(金)トークセッション

「2011年以降の福島、そしてマスメディア」

メディアアナリスト

上杉 隆 参加者の皆さん

株式会社 NOBORDER 代表取締役の上杉隆さんをお迎えしてのトークセッションを開催します。震災後の福島に何度も足を運び、原発事故後の福島の状況を伝える活動をしてきた上杉隆さんからお話を聞きながら、参加者の皆さんと意見交換をしながら進めます。身体に優しい、おいしいご飯を食べながら、いろいろな意見を交わしましょう！

■ 開場: 18:30 開演: 19:00

■ チケット代: 2,000 円 美味しいお食事付きです♪

■ 定員: 50 名 お早めにお申込みください

■ 会場: 自然食レストラン「銀河のほとり」詳細中面参照

【上杉隆プロフィール】

1968年東京都出身 株式会社NOBORDER代表取締役
メディアアナリスト 元衆議院議員・鳩山邦夫公設秘書
ニューヨーク・タイムズ取材記者、フリージャーナリストを経て、「ニュース・オブ・エド」総合プロデューサー・アンカー。「上杉隆のザ・リテラシー」アンカー。公益社団法人「自由報道協会」創設者。日本ゴルフ改革会議事務局長。日本・ロシア協会事業部部長。日本政策学校顧問。日本外国特派員協会会員。



【上杉隆公式HP】 <http://uesugitakashi.com>

チケット
絶賛発売中

ヴォイス・オブ・フクシマ
【公式ホームページ】

予約フォームがありますので
ご利用ください



ヴォイス・オブ・フクシマ
@VoiceOfFukushima

日にちと枚数・お名前・ご連絡先電話番号を
記載して、メッセージをお送りください



※出演者の方々の敬称を省略させて頂いております。



映画鑑賞 & 意見交換イベント「福島を語ろう2017～3・11を忘れない～」
主催:一般社団法ヴォイス・オブ・フクシマ

福島を語ろう2017～3・11を忘れない～

3月4

日(土)ライブと映画と意見交換会（お食事の後、店舗横の「百笑藏」にて映画を上映します。12:50時間までにお食事を終え
「百笑藏」にお集まりいただく事になりますので、時間に余裕をもってお越しください。）

Time Table

- 11:30 開場 お食事をお楽しみください
- 13:00 Opening act アベマンセイLIVE「かもめの視線」
- 13:30 映画上映「大地を受け継ぐ」
- 15:15 (15分の休憩の後) 意見交換会 ゲスト:野菜ソムリエ 設楽哲也

- 開場: 11:30
- チケット代: 1,500円 身体に優しい食事付き♪
- 定員: 40名 お早めにお申込みください
- 会場: 自然食レストラン「銀河のほとり」

「大地を受け継ぐ」(2015年公開 86分)

【監督】井上淳一 【出演】樽川和也 / 樽川美津代ほか

11人の子どもたちが福島へ向かった。知られざる農家の孤独な“声”に心を揺さぶられる、たった一日の食と命の体験。

わたしたちが変われば、世界は変わる。

2015年5月、東京。ごく一般的な16歳から23歳までの学生が集まった。初対面の人も多いなか、いさか構えてはいるものの、初々しい表情。まるで学校の課外活動のような気持ちで参加した。

車内は、道すがらの風景をスマホで撮影する子、SNSに書き込みをする子、新しい友達とおしゃべりする子。平和で和やかな空気が流れる。そして、到着したのは福島県須賀川市。福島第一原発から約65km離れた一軒の農家だった。

笑顔で出迎える、息子と母親。そして語り始められた彼らの四年間の物語。その孤独な“声”に耳を傾ける。

それは生涯忘れられない、たった一日の食と命の体験に、心揺さぶられる瞬間だった――。

【Opening act】アベマンセイLIVE「かもめの視線」



【アベマンセイプロフィール】
1981年生まれ。ギタリスト
地元高校を卒業後、音楽専門学校「メザーハウス」で、鈴木宏幸氏、西山毅氏(元HOUND DOG)、山本恭司氏(BOWWOW)などに師事。卒業後セッションやサポート活動をする。

地元に戻り2007年からバンドのサポートで活動をしつつ、2008年Bar QUEENのオープンライブの第一回目で出演しソロ活動を始める。
2010年に空撮家、酒井英治氏と制作したいわきの沿岸部を中心に映した「かもめの視線」をDVDで発表し、いわき市ののみならず県内外を超えて話題になり様々なイベントに出演。メディアにも取り上げられる。

【上映後意見交換会】ゲスト:農家・野菜ソムリエ 設楽哲也



【設楽哲也プロフィール】
「設楽農園」経営(須賀川市農家)
農作物の栽培だけでなく、地元レストランと共同で「きゅうりのフルコース」などのオリジナルレシピを提案するなどのアイディアで、福島の農家と消費者をつなぐ役割を担っている。
野菜ソムリエ、食育指導士などの資格を持ち、未就学児から大人まで幅広く食育活動にも参画し、活躍している。

今年も3日間、私たちのイベントを会場と食の面から支えていただきます。

自然食 レストラン
銀河のほとり

自家製の野菜や大豆、味噌などを使用し、地元の食材や無添加の調味料などから作られる料理は、見た目や味はもちろん、アイディア満載の畠の恵みがたっぷり。

彩りも鮮やかです。身体に優しく、細胞まで元気になるようなお食事です。

住所: 福島県須賀川市滑川字東町327-1 TEL: 0248-73-0331



営業時間: 11:30～14:30(14:00オーダーストップ)

定休日: 不定休 (ブログや電話でご確認ください) 平日は16:00までカフェタイム営業

ブログ: <http://plaza.rakuten.co.jp/ginganohotori/> ※勉強会や夜の食事の予約を受け付けています。(食事の予約は4名以上)※様々な楽しいイベントも開催しております。

チケット
絶賛発売中

ヴォイス・オブ・フクシマ
【公式ホームページ】
予約フォームがありますので
ご利用ください



ヴォイス・オブ・フクシマ
@VoiceOfFukushima
日にちと枚数・お名前・ご連絡先電話番号を
記載して、メッセージをお送りください



3月5

日(土)映画と意見交換会（お食事の後、店舗横の「百笑藏」にて映画を上映します。12:50時間までにお食事を終え
「百笑藏」にお集まりいただく事になりますので、時間に余裕をもってお越しください。）

Time Table

- 11:30 開場 お食事をお楽しみください
- 13:00 Opening movie 「映画をつくる子どもたち」
- 13:30 映画上映「飯館村－放射能と帰村－」
- 15:45 (15分の休憩の後) 意見交換会 ゲスト:土井敏邦監督(予定)

- 開場: 11:30
- チケット代: 1,500円 身体に優しい食事付き♪
- 定員: 40名 お早めにお申込みください
- 会場: 自然食レストラン「銀河のほとり」

「飯館村－放射能と帰村－」(2013年公開 119分)

【監督・撮影・編集・製作】土井敏邦

ほんとうに帰れるのか? いったい“除染”は誰のためか? 莫大な予算、その真の狙いは何か? “故郷喪失”に苦悩し、葛藤する村人たちの1年間の記録。

原発から30キロ以上も離れていたながら、風向きと降雪・降雨のために大量の放射能に汚染され、「全村避難」を余儀なくされた福島県・飯館村。酪農の生業を失い、家族離散に追い込まれた二つの家族の「その後」の生活と、故郷や家族への思いを描きながら、原発事故がもたらした“故郷喪失”的深刻な傷痕をあぶり出す。

避難までの2、3ヵ月間に及ぶ放射能被曝の不安、とりわけ幼い子どもたちへの影響に若い親たちは怯え苦しみ続けている。一方、政府は村民の帰村と村の復興をめざし、2011年末から「除染」効果の実験事業を開始した。しかしその効果は「子どもたちが安心して暮らせる」レベルにはほど遠い。村人の中から、数千億円にも及ぶ莫大な費用のかける除染で、ほんとうに帰村できるのかという疑問や不安、不信の声が噴出する。「帰りたい。しかし帰れないのでは? ではどうする?」

——2年に及ぶ避難生活の中で、飯館村の村人たちの葛藤と苦悩は続く。

私は故郷の村に帰れますか?

村で子どもたちと安心して暮らせますか?

もし帰れなければ、どこに“故郷”を探せばいいですか?

【Opening movie】映画をつくる子どもたち

宗教や文化など異なる背景を持つ子どもたちの教育としてオーストラリアで取り組まれてきた映画制作教育。

3.11以後の福島県広野町では、オーストラリアの映画制作教育をモデルにした地域理解の学びが始まっています。

故郷から一度は避難を強いられた子どもたちが、地域を歩いて故郷の「いま」を切り取り、未来を描く。

本プロジェクトのコンセプトと子どもたちの映像作品を紹介します。

ゲスト:一般社団法人リテラシー・ラボ代表理事 千葉偉才也

公共政策アドバイザー、公共経営修士。教育(専門はメディア教育)を中心に公共政策分野で活動中。元国会議員政策秘書。



【上映後意見交換会】ゲスト:土井敏邦監督(予定)

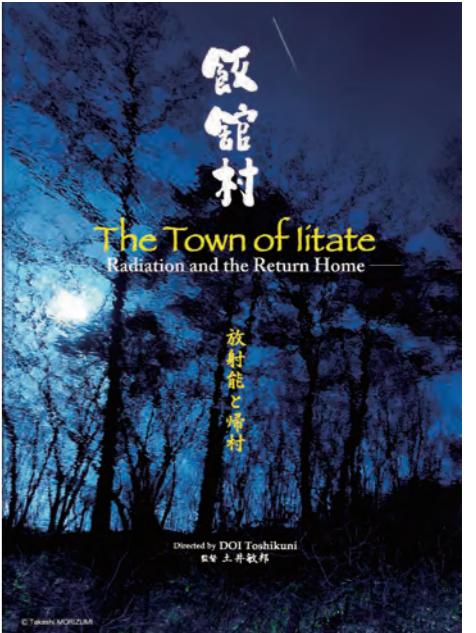
【プロフィール】

1953年佐賀県生まれ ジャーナリスト
1985年以来、パレスチナをはじめ各地を取材。1993年よりビデオ・ジャーナリストとしての活動も開始し、パレスチナやアジアに関するドキュメンタリーを制作、テレビ各局で放映される。

2005年に『ファルージャ 2004年4月』、2009年には「届かぬ声—パレスチナ・占領と生きる人びと」全4部作を完成、その第4部『沈黙を破る』は劇場公開され、2009年度キネマ旬報ベスト・テンの文化映画部門で第1位、石橋湛山記念・早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。

次作となった2012年1月公開の『私を生きる』(2010年)は、2012年度キネマ旬報ベスト・テン文化映画部門で第2位となる。

その他、東日本大震災後に制作された『飯館村 第一章・故郷を追われる村人たち』(2012年)で「ゆいいん文化・記録映画祭・第5回松川賞」を受賞。



配給: 浦安ドキュメンタリーオフィス
【公式ホームページ】 <http://doi-toshikuni.net/ji/iiitate2/>

